

iii) 参加者及び行程

表－3 先進地視察参加者

所 属	人 数
新四王司町	1名
四王司町	1名
まちづくり協議会	4名
地方自治研究機構	3名

表－4 先進地視察行程

8月29日(火) 真庭市		8月30日(水) 岡山市	
8:47	長府駅発	9:03	岡山駅バスセンター発
↓	(下関駅で乗換)	↓	(岡電バス)
9:19	小倉駅着	9:38	岡山ふれあいセンター視察
9:27	小倉駅発		
↓	(JR山陽新幹線)		
10:52	岡山駅着	↓	(岡電バス)
11:07	岡山駅発	13:12	岡山駅着
↓	(JR津山線)	14:15	岡山駅発
12:13	津山駅着	↓	(JR山陽新幹線)
12:46	津山駅発	14:50	広島駅着
↓	(JR姫新線)	14:54	広島駅発
13:20	吉見駅着	↓	(JR山陽線)
↓	(タクシー)	15:48	厚狭駅着
13:40	開田コミュニティハウス視察	16:16	厚狭駅発
↓		↓	(JR山陽線)
16:10		16:34	長府駅着 解散
↓	(タクシー)		
16:20	吉見駅発		
↓	(JR姫新線)		
16:58	津山駅着		
17:29	津山駅発		
↓	(JR津山線)		
19:01	岡山駅着		
	岡山市 宿泊		

### ③防災講演会

当該地区住民の防災意識を高めるため、外部講師を招いて防災講演会を行った。

●開催日 平成 29 年 9 月 3 日（日）10 時～12 時

●場所 長府東公民館 3F 講堂

●講師 NPO 法人「神戸の絆 2005」専務理事  
金芳 外城雄（かねよし ときお）先生

先生は、被災時には神戸市教育委員会総務部長をされており、その後、東灘区長・収入役等を歴任されたのち現職に至る。神戸市の復旧だけでなく復興にも多大な貢献をされている。

●テーマ 阪神・淡路大震災から学ぶこと

●出席者数 105 名

#### 【担当者の意見・感想】

- ・若い世代の出席者が極端に少なかった。中高校生の出席は皆無。
- ・PR の手段を回覧版だけに頼る事には限界がありそうだ。
- ・主催者側の不手際で、聞きにくかったり配布資料が小さすぎて読みにくかったりしたようだ。
- ・講師選定に当たっては、最初熊本市付近被災地の自治会長あるいは自主防災組織会長を考えていたが、相手側が非常に多忙であり都合がつかなかった。防災安全課のアドバイスで『神戸の絆』を紹介してもらい、直接連絡して了解してもらった。
- ・電話・メール等で連絡・打ち合わせはできるが、直接面会の上打合せをしないと中々こちらの真意・意図は伝わらない。なるべく近くの講師を選んだ方がよいと思う。

### （3）対象地域でのまち歩き

#### ①まち歩きメンバーの選定

メンバーの選定は各自治会長にお願いした。小中学生の参加を模索したが、PR 不足と学校等の行事があり、参加はなかった。

参加したメンバーを表-5 に示す。

#### ②準備するもの

必要な文具等は、2 班が同時に作業することを想定して 2 セット準備した。

表-6 に、まち歩きに必要な物を示す。

表-5 まち歩きに参加したメンバー

所 属	人 数	所 属	人 数
四王司町	4名	地域包括支援センター	1名
新四王司町	2名	検討部会 (まちづくり協議会)	4名
松小田中央	4名		

表-6 まち歩きで準備するもの

	品 名	規 格	数 量	備 考
1	画板	大	1個	
2	クリップ	大	4個	画板に地図を固定するため
3	鉛筆	黒色 2B	1打	
4	鉛筆	赤色	2本	
5	消しゴム		2個	
6	カッター		2個	
7	バインダー		2個	
8	のり		1個	
9	ハサミ		1個	
10	定規		1本	
11	三角定規		1組	
12	附箋	小、中	1個	
13	コンベックス	5m	1個	道路幅員等の測定
14	色鉛筆	12色	1組	
15	サインペン	黒色	5本	
16	サインペン	赤色	5本	
17	フェルトペン	黒色、太	2本	
18	蛍光ペン	5色	1組	
19	デジタルカメラ		1台	私物を使った
20	小物入れ		1個	
21	収納容器		1個	

### ③マップに記載する事項

防災マップに記載する事項を表-7に示す。

この表は一般的な記載項目であって、該当するものが無い地区もあるので、実際にマップを作成する地区で取捨選択すればよいと思う。

表-7 マップに記載する事項

記載する事項	写真	備考
避難場所	○	階段等の注意事項
避難所	○	
避難所・避難場所以外の公園・空地	○	
避難所になっていない学校・役所	○	階段等の注意事項
高台・避難可能な建物（民間も含む）	○	
コンビニ等		
道路幅が狭いところ・袋小路	○	階段等の注意事項
河川	○	ガードレール手摺等が無いところ
医療機関		
消火栓		今回は必要ないと判断した
警察署・消防署		
防災資機材の置場、リスト	○	
公衆電話		
AED 設置個所		
公衆トイレ	○	
過去に災害があった場所	○	
ガソリンスタンド		
建設会社		
災害時要介護者の名簿		今回は問題提起にとどめる 来年以降の課題
被災推定区域		

### ④まち歩きの日程

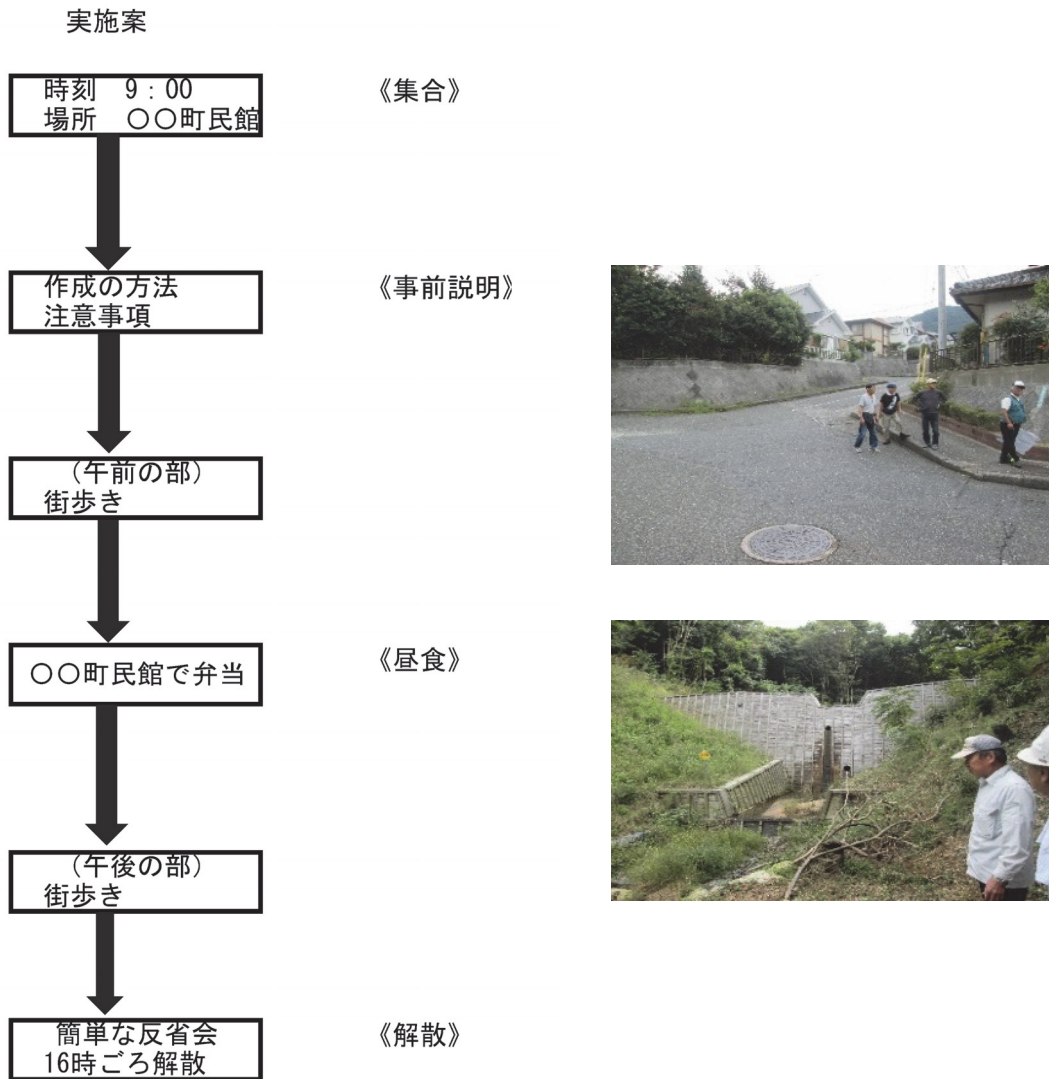
メンバーの仕事等を考慮して休日を選定した。天候等を考え予備日を設けた。

表-8 まち歩きの実施日程

月日	曜日	実施した地区	備考
9月17日	日	新四王司町・さつきヶ丘	台風18号で中止
9月18日	月	松小田中央	敬老の日
9月24日	日	新四王司町・さつきヶ丘	
10月1日	日	四王司町	

## ⑤当日の行程

当日の行程を実施案のフロー図で示す。



図一 2 まち歩き実施案

## ⑥まち歩き役割分担

あらかじめ役割分担を決めていた方がスムーズに進むので一例を下表に示す。

表－9 役割分担表の作成例

係	役割	担当者
リーダー	目的を明確にして実施する。 予定時刻内に終了するよう気を配る。	
サブリーダー	リーダーを補助する。 交通安全には十分気をつける。	
点検係	危険箇所等のチェックをする。 必要事項を記録する。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">                     担当者を決定後、 この欄に適宜記入 する。                 </div>
点検係	危険箇所等のチェックをする。 必要事項を記録する。	
記入係	点検箇所、撮影箇所等を地図に記入する。	
写真係	必要と思われる箇所は、もれなく撮影する。	

## ⑦実際にまち歩きをして

実際のまち歩きの状況を新四王司・さつきヶ丘地区を例に記述する。

画板に**住宅地図のコピー**をクリップで止め必要事項を書き留めるようにした。最初は国土地理院作成の**2,500分の1の地形図**を利用したが、松小田中央のまち歩きで地図が小さすぎて記入しづらいという意見が出たので住宅地図を利用した。住宅地図は長府地区のものを1冊購入し**まちづくり協議会の事務局（長府小学校内）**に常備しておく。なお、文房具等の備品は収納ケースに入れて**長府東公民館駐車場にある防災資機材保管庫**に収納しておく。

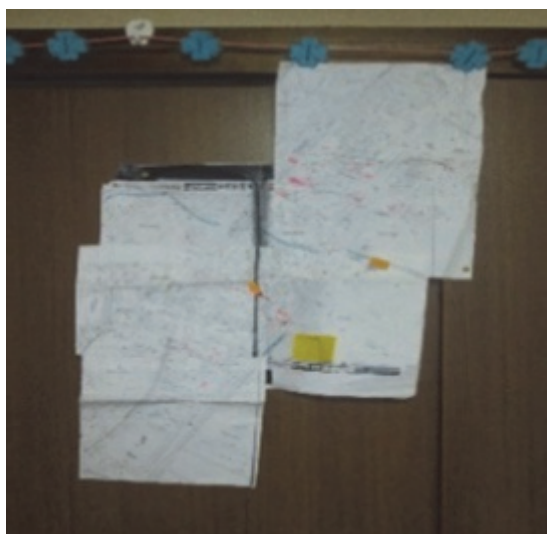
9月24日（日）朝9時に新四王司町公民館に集合し、記載事項の確認、交通安全を再確認したのちまち歩き開始。公民館から四王司山方向に進み、土砂災害警戒区域を中心に見て回った。想定避難路を確認するため、新四王司からさつきヶ丘に向かった。特に**さつきヶ丘入り口の交差点、その下流の八幡川左岸のガードレールが設置していない状況**に注目した。そのあと指定避難所の**第2保育園まで歩き避難路を再確認**した。さつきヶ丘町民館で昼食（弁当）を取り、反省会を行った。まち歩き自体は午前中で大体終了したが、食事をとりながらみんなで話すことは、まさにツールボックスミーティングであり非常に有効かつ重要であろう。マップの作製を10月9日に行うことを決め、午後2時頃解散した。

松小田中央地区のまち歩きで特筆しておきたいことは、松小田中央町民館の横のブロック塀に**1999年9月24日の台風18号で浸水した水位**がペンキで記録してあったことである。後日この高さをもとに浸水位の標高を求め、防災マップに反映した。



## ⑧マップの作成

まち歩きで必要事項を記入したマップ（住宅地図）をもとに国土地理院の地形図（2,500分の1）に書き込んだり写真を貼ったりしてマップを作り込む。



まち歩きしながら書き込んだ  
マップ（松小田中央）



まち歩きしながら書き込んだマップ  
（四王司町、新四王司町、さつきヶ丘）

### 【担当者の意見・感想】

- ・まち歩きしながら記入するので文字は自然と大きくなる。多少はみ出ても気にしないでどんどん書き込んでいく方が後で整理しやすい。
- ・住宅地図が作成された時期とタイムギャップがあるので、現状と違うところが出てくる。これはこまめに注意書きを加えていた方がよいと思う。今回も山側よりも海側（市街地側）はだいぶ名称が変わったり、建物がなくなっていたりしていた。
- ・なるべくカラフルにしていた方が後から分かりやすいと思う。

マップ作成は各班ごとに行った。表-10 参照。

表-10 マップ作成作業

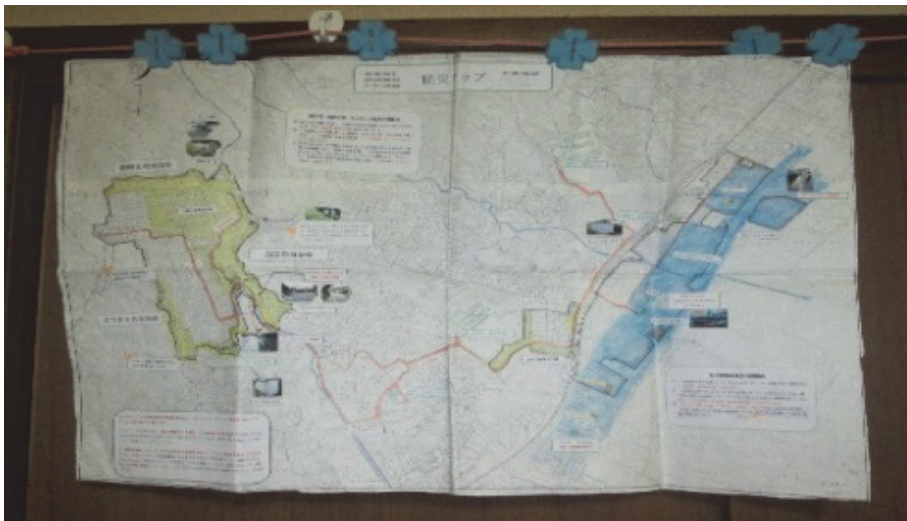
班名	月日	時刻	場所
四王司町	10月6日	9:00~12:00	四王司町公会堂
新四王司町、さつきヶ丘	10月9日	9:00~12:00	新四王司町公民館
松小田中央	10月10日	18:00~21:00	高齢者生活相談室

マップ作成には原則としてまち歩きに参加した方をお願いした。事前に客観的事項については、記入しておく作業が早い。今回は3地区を1枚の地形図にまとめた。

次の写真は3地区をまとめたマップの原稿である。



1回目のマップ（松小田中央）



編集を加えたマップ

#### 【担当者の意見・感想】

- ・まち歩きの原稿をもとに編集するのであるが、その際は文字の多きさ、色、漢字にするかひらがなにするか等を決め、地図の中で統一するようにした。
- ・各自治会で町民館、公会堂等呼び名に違いがあるので注意した。色付けは最初色鉛筆を使用したけど、濃淡が出るので途中から水彩絵の具にした。



マップを完成するため、前ページ下側のマップをもとに、機構に最終的な編集をしてもらった。  
またその後、以下の追記、修正及び確認等を行った。

●地図以外の内容の整理（以下を追記）

- ・避難準備情報／避難勧告／避難指示に関する説明
- ・非常時持ち出し品の一覧／持ち出し品メモ欄
- ・避難所・避難場所一覧、及びその説明
- ・行政による防災メール等の説明

●地図に関する記載

- ・現地調査日付を追記
- ・方位（北の方角）・スケールバー（0-100mの目盛り）を追記  
（縮尺は、対象町内会によって微妙な違いが出るため割愛した）

●公的内容の記載

- ・制作は「長府東部地区まちづくり協議会」に決定
- ・平成29年度の市・機構の共同研究事業を活用して制作したことを明記
- ・元となる地図の使用に関する国（国土地理院）及び市長の承認について、市に確認を依頼した上で、必要な内容を記載

●防災・避難に関する修正

- ・長府運動場の付近に「体育館は避難場所でない」旨を注記（一覧表も同様）  
（運動場が避難場所であれば体育館も含まれるという住民の誤解を防ぐため）
- ・現地調査後にガードレールが新設されたため、それに伴う記載及び写真の修正
- ・現地調査後に病院等の施設の新設・廃止があったため、現状と異なる点を修正

●その他修正

- ・タイトルは左上端ではなく、上部中央に統一
- ・背景色は水色を採用（家庭の壁に貼ったとき違和感のないように）
- ・町内会名称を若干縮小（地元住民には自明なのに大きすぎたので）

## 4 マップ作成により分かった地域の問題点

### (1) 被災時の避難所について

以前、市役所から配布されたハザードマップには、災害種別による避難所の選択は考慮されておらず、長府小学校と長成中学校は災害の種別にかかわらず『避難所』として開設されると、我々は思い込んでいた。2015年に国の『災害対策基本法』が改正され、災害の種類に応じて避難所を開設されるように改正された。このため、土砂災害警戒区域にかかっている両校は、土砂災害時には避難所として開設されないことになっている。

表-11に長府東部地区及び付近にある避難所を記載する。

表-11 長府東部地区及びその付近の避難所一覧

No	名称	所在地	土砂	地震	津波	高潮	洪水	収容人数
1	長成中学校	長府日の出町4-1	<del>○</del>	○	○	○	○	708
2	長府小学校	長府松小田14-1	<del>○</del>	○	○	○	○	377
3	長府第2保育園	長府中六波12-26	○	<del>○</del>	○	○	○	84
4	長府第3保育園	長府松小田本町1-38	—	—	—	—	—	63
5	長府東公民館	長府松小田本町4-15	○	○	○	○	○	273
6	長府運動場	長府江下町	○	○	○		○	—
7	西部高等産業技術学校	千鳥が丘21-3	<del>○</del>	○	○	○	○	476
8	千鳥が丘2号公園	長府千鳥が丘町	<del>○</del>	○	○	○	○	—
9	長府扇町第1運動場	長府扇町4番	○	○	○		○	
10	掛州公園	長府才川2丁目	<del>○</del>	○	○	○	○	—
11	陽光台公園	長府才川2丁目	<del>○</del>	○	○	○	○	—
12	さつきヶ丘児童公園	長府満珠町さつきヶ丘	○	○	○	○	○	—
13	扇町運動広場	長府扇町4番	○	○	○		○	—
							合計	1,981
14	豊浦高校	長府宮崎町1-1	○	○	○		○	510
15	関見台公園	長府宮崎町	<del>○</del>	○	○	○	○	—
16	長府中学校	長府逢坂町3-1	<del>○</del>	○	○	○	○	411
17	豊浦小学校	長府亀の甲2丁目2-1	○	○	○	○	○	468
18	長府公民館	長府土居の内町1-6	○	○	○	○	○	220
19	すみれ保育園	前田1丁目9-1	<del>○</del>	○	○	○	○	105
							合計	1,714

(太字は長府東部地区にある施設)

## (2) 災害時の要介護者支援の問題

当初、今回の防災マップ作成に当たり「災害時要介護支援」について、どうかたちで記載できるか検討を試みた。しかしながら、①要介護者のプライバシー②要介護者と支援者の相互理解等非常に難しい課題であることが、先進地視察等で分かってきた。

この問題を我々だけで対処するのは不可能である。連合自治会、まちづくり協議会、民生委員、包括支援センター、下関市福祉政策課などと共通の認識をもって対処することになった。来年以降の検討事項とする。

## (3) 若年層、青年層の参加について

8月にマップ作成の計画準備を始めたため、まち歩きは9～10月、編集作業は11～12月となった。中学生にPRするための時間も短く、また学校にとって行事の多い時期であったので、参加をみることができなかった。若い人こそ防災意識を高めなければならないことを鑑みれば、もう少し時間的余裕が欲しかった。PRの方法についても再度検討すべきであろう。

そこで、長成中学校に課外活動の一つとして、『防災部(案)』を作ってもらうことを提案する。来年度、まちづくり協議会に移管される予定の自主防災組織が全面的に協力すれば、学校の負担も少なく済むと思われる。

## (4) 年間の活動スケジュールについて

今年度は初めての取組であったため実活動期間が短かったが、来年度以降は、年度初めに速やかに担当地区を決め、夏休み中にまち歩きが終了するように計画すれば、余裕をもって活動できると思う。

注：実際の防災マップ作成マニュアルには、この後に参考資料1、2が付くが、「第3章 現地調査報告」と重複するため、本報告書では割愛している。

## **第5章 今後の事業継続に向けた 検討事項**

